

## 解答例

## 適性検査Ⅰ

(省略)	200点
------	------

## 適性検査Ⅱ

1	<p>問題 1</p> <p>ア <input type="text" value="65.9"/>      イ <input type="text" value="1"/>      ウ <input type="text" value="113.0"/>      エ <input type="text" value="3.7"/></p>	70点
	<p>問題 2</p> <p style="text-align: center;">ひまわりの種    みかん    パン    キャベツ</p> <p>上の二つだけが正しいとき、好きな順番に食べ物を左から並べると</p> <p style="text-align: center;"><input type="text" value="パン"/> → ひまわりの種 → みかん → キャベツ</p> <p>に定まる。</p> <p style="text-align: center;">ひまわりの種    みかん    パン    キャベツ</p> <p>上の二つだけが正しいとき、好きな順番に食べ物を左から並べると</p> <p style="text-align: center;"><input type="text" value="パン"/> → みかん → キャベツ → ひまわりの種</p> <p>に定まる。</p>	60点
	<p>問題 3</p> <p>(1)</p> <p style="text-align: center;"><input type="text" value="(334+311+292+346+327+304+317+298+275+310)÷6=519"/></p> <p>(2)</p> <p>選んだハムスター    A    B    <input type="text" value="C"/>    D    E    体重 <input type="text" value="125"/> g</p>	70点
2	<p>問題 1</p> <p>選んだ区分の記号 <input type="text" value="(A)"/></p> <p>《説明》</p> <p>総人口に対する15才以上65才未満の人口の割合は、1964（昭和39）年には約67%だったが、1989（平成元）年には約70%に増えた。しかし、2009（平成21）年には約64%に減り、1964（昭和39）年よりも低い割合になっている。</p>	75点
	<p>問題 2</p> <p>選んだくだもの <input type="text" value="バナナ"/></p> <p>《説明》</p> <p>給料の平均額は1964（昭和39）年から2009（平成21）年まで全体的に増えているのに対して、バナナのねだんには大きな変化は見られず、ほぼ一定である。</p>	30点
	<p>問題 3</p> <p>地球ぎは地球の形をそのままちぢめたものなので、きょりをおおよそ正しく表すことができるという特色がある。一方、図5の地図は、球である地球の表面を平らな紙に表したものであるため、きょりを正しく表すことができないという特色があるから。</p>	45点

<p>③</p>	<p>問題 1</p>	<p>2回目と7回目の実験の結果は、水面から飛び出した球の様子を見ると、方向が横へ曲がってしまっている。そのため、それらの結果を使わずに、6回分の実験結果から平均を求める。</p>	<p>50点</p>
	<p>問題 2</p>	<p>深さが0 cmから10 cmあたりまでは、予想と同じく、深くなれば深くなるほど、飛び出す高さが大きくなる。しかし深さが10 cmあたりをこえると、予想とはちがひ、深くなれば深くなるほど、飛び出す高さは小さくなる。</p>	<p>50点</p>
	<p>問題 3</p>	<p>選んだ記号 <input type="text" value="H"/></p> <p>《考えた理由》 立体の上半分については、深さ20 cmのところから最も高く飛び出す、カの球の形が適していると考えられ、一方、下半分については、深さ0 cmのところから最も高く飛び出す、オの立体の形が適していると考えられるから。</p>	<p>50点</p>